

まず交通ルールを守ろう

事故をなくして明るいまちに

交通事故の恐ろしさは、加害者も被害者も、ともに被害者だといわれていることからわかります。

日光市内でも、毎年、事故件数が増加しています。貴重な人命の喪失を防ぐために、負傷する人を減らすために、そして、交通事故による財産の損害を防ぐために、町ぐるみで交通違反をなくしましょう。

死亡ゼロだが

負傷者 67人も

|| ことし日光市内で ||

ことし一月から六月までに全国で発生した交通事故による死者数は六、一〇三人です。この数字によると、毎日交通事故によって四〇分ごとにひとりの命が失なわれていることになり、「交通戦争」という表現もけつしてオーバーではないようです。また、昨年一年間に全国で発生した交通事故による死者数をみますと、死者数が一万三、九〇四人、負傷者数がなんと五十一万七、七七五人にもなっています。

このような悲惨な交通事故がなぜあつたをたないのでしょうか。その原因のひとつは、道路の利用者が基本的な交通規則を守らないこと。第二に、交通事故防止に対するふだんの心がまえが欠けていること、のふたつがあげられています。

最近の悲惨な事故の傾向は、第二の原因によるふだんの心が

まえが欠けているため被害を大きくしていることが目立っています。とくに、自動二輪車などに乗車中、頭部損傷によって死亡したものが多く、自動二輪車事故中の大部分を占めているのが現状です。これは、四輪車のように安定感がないうえ、からだをむきだしにしているの、てん倒した場合に頭を打ちやすいからです。したがって、自動二輪車を運転する際には、必ずヘルメットをかぶり、たいせつな生命を守りたいものです。

市内での

交通事故の現状

それでは、日光市内の交通事故発生状況をみてみましょう。ことし一月から六月までのあいだに市内で発生した交通事故は一〇三件で、昨年同期に比較して三〇件の増となっています。

このうち、死傷事故は六七件でいずれも死者はゼロの状況です。しかし、死亡しないまでも頭部損傷などによって知覚神経をおかされ、ながいあいだ、あるいは永久的に苦しまなければならない人がたくさんいるのです。

また、交通事故をもっともおこしやすい原因のひとつに、酒よ、無免許運転があります。昨年一年間における市民の酒よ、無免許運転(検挙されたもの)は一〇四件(酒よい四三件無免許六一件)にのぼっています。このうち、事故をおこしたものが二七件で、酒よいによる死者が一人、負傷者が一〇人、一六人の死傷者を出しています。

これから本格的な観光シーズンを迎え、ますます交通量もふえてきますが、これに伴って交通事故も増加の一途をたどり

ます。交通事故の原因はいろいろありますが、とくに、酒よい無免許運転、スピード違反、追越し違反、路上の違法駐車など

歩行者も運転者もお互いに注意して

交通事故の原因をみますと、歩行者も運転者もお互いの不注意によるものが大半を占めています。このような不注意をなくするために、歩行者も運転者もつぎの事項は必ず守ってもらいたいものです。

- 歩行者
 - 道路を横断するときは、必ず横断歩道を。また、車のすぐ前
 - 踏切や見とおしの悪い所では一時停止をし、安全をたしかめてから渡る。むりな追い越し、スピードの出しすぎ、酒よい運転は、けつしてしない。
- 運転者
 - やうしるは、けつして横断しない。歩道のない道路では必ず右側通行する。



【市内での交通事故現場写真】